



今月のみさとし/解脱は実に容易に出来るものであり、又一番出来難いものである。(ご聖訓 第一巻 17 頁)

本部布教推進会議

立教90年に向けて報恩行の徹底を



立教 90 年となる来年に向けて報恩行を呼びかける渡辺理事長



活動実践報告を発表した、左から合澤東北第 2 教区長、田中京都教区長、重實本部教務員



雨の早朝に太神社殿前で行われた布教推進祈願

6 月 24 日から 25 日にかけて御霊地・研修センターにて本部役職員、本部教務員、教区長による本部布教推進会議が行われた。

まず初めに渡辺孝彦理事長が開会挨拶に立ち、本会議の趣旨を説明。続けて「立教 90 年に向けて」をテーマに、圏域制度の確立と家族茶話会の推進について、また記念大祭に 1 万人動員を目指す述べ、最後に「御霊地への足運びが大切」と呼びかけた。

次に西村晴雄教務局長が下半期に向けた本部布教活動方針の確認と推進について語り、各自の自覚を促した。

午後からは報恩行をテーマに、宮原秀治青年本部長が「副食を献じる運動」の献金先であるジャパンハートの協力を得て遂行されたミャンマー・スタディツ

アーの報告を行った。続いて松田佳高布教部長より「報恩行としての茶話会活動」の講義があり、その後、合澤裕行東北第 2 教区長、田中英次京都教区長、重實廣美本部教務員の 3 名より「活動実践報告」があり、それを受け、各圏域に分かれて「家族茶話会のすすめ」をテーマに会議が行われた。

翌日は午前 6 時半より、そぼ降る雨の中、太神社殿前にて布教推進祈願を厳修。その後、新設された南棟を見学した。

朝食後は宮坂保徳教育部長より「絶家に関する学び」の資料説明があった。

次に奉祝立教 90 年・解脱金剛 70 年祭について、西村祭典委員長からは来年秋の記念大祭に向けての心構えを、藤原博祭典副委員長からは、勧募金の進捗状況や大祭当日の運営、宿泊や駐車場などの

説明とお願い、飯塚健一記念大祭実行委員長からは、再度参加したくなる大祭に向けて鋭意計画中であり、なるだけ多くの人を誘うようにと呼びかけがあった。

続いて立教 90 年に向けて役員別ディスカッションが、また理事会、解脱金剛奉賛会幹事会もそれぞれに行われた。

会議は正午で終了し、教区長らは教区長野外研修に出発した。

九州北部豪雨へ義援金

このたびの九州北部豪雨災害において、被害を受けられた地域の皆様、関係の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

本会では 7 月 12 日、一番被害の大きかった福岡県朝倉市役所に、本会を代表して村上説男常任理事が義援金を届けました。

奉祝 立教90年記念事業

起工式・落慶式を執行

6 月 22 日、午前 10 時より御霊地道場並びに旧女子寮耐震改修工事の起工式が渡辺孝彦理事長、長老さま、岡野英夫顧問をはじめ御霊地建設委員、御霊地役職員、工事業者が立ち会いのもと厳かに行われた。

続いて工事期間中の道場移転に伴う

御神前の仮遷座式が行われ、会員休憩所に仮道場として御神前が整えられた。

午後 2 時からは、岡野正名誉顧問も参列され、南棟の落慶式が行われた。

南棟 1 階は分散した施設倉庫を集約して利用しやすい倉庫に。2 階は和室 (3 部屋) にトイレ、浴室を設置し宿泊可能



御霊地道場改修工事起工式で祝詞を奏上



南棟落慶式にて岡野名誉顧問が玉串を奉奠

となった。そして 30 名規模のキッチン付きの多目的広間 (集会室) がある。この 2 階の各施設の利用については御霊地管理部にお問い合わせください。

神変大菩薩碑を末永くお守りしたい



梅雨の晴れ間に恵まれた 6 月 19 日、山梨県富士吉田市の北口本宮富士浅間神社にて、第 48 回神変大菩薩碑建立記念祭が、長老さま、岡野英夫顧問、渡辺孝彦理事長をはじめ、来賓各位、地元甲信教区、関東地区会員が参加のもと、神変大菩薩碑前で厳かに執り行われた。

当日は午前 11 時に開式し、修祓、献饌、長老さまによる祝詞奏上の後、代表者による玉串奉奠、勤行と続いた。渡辺理事長の挨拶では、「我々は会員として富士浅間神社を尊崇し、神変大菩薩碑を末永くお守りしていきたい」と述べた。続いて上文中司厚宮司は、「神仏から離れて日本の精神文化の発展はありえない。これからも交流を深めていきたい」と祝辞を頂き＝写真、地元会員を代表して、白木好雄甲信教区長より挨拶があった。

式典終了後の直会では、地元会員の心づくしの手料理が振る舞われ、親しく歓談のひとときを過ごした。

津之守弁財天夏祭



梅雨空の 7 月 1 日、本部道場報恩日行事前の正午より、長老さま、稲子知義崇敬会会長をはじめ、本部役員、本会会員、地元荒木町住民が参列する中、四谷津之守弁財天の夏祭が執り行われた。

式典では、長老さまが祝詞を奏上された後、玉串奉奠、拝礼行事が行われ、参加者一同、日頃の御加護に感謝を捧げた。

九州一日コース



7 月 2 日、本部研修・九州一日コースがサンメッセ鳥栖にて開催され、九州教区の会員ら 57 名が参加し研鑽した。

午前 11 時、開会。まずは宮坂保徳教育部長より、『ご聖訓』第 10 巻をテキストに、金剛さまの立教のご精神や教育勅語に触れながら、新たな時代に向かう心構えを学んだ。午後は「茶話会と断捨離」と題して、西脇武利教育部主任が家庭茶話会の推進を呼びかけた。続いて再び宮

御霊地勤労奉仕始まる

7 月 6 日～8 日にかけて、第 1 回御霊地勤労奉仕が行われ、全日程スタッフ合計 13 名が参加した。本研修は、御霊地整備とともに心と身体を整える学習プログラムを取り入れた奉祝前年の特別企画として組まれたもの。

1 日目、午前 9 時の朝礼に続くミーティングにて、岡野成高管理部長と宮坂保徳教育部長の挨拶、作業説明の後、記念館周辺の草刈り、剪定、落葉掃き等の作業に励み、終礼前には、新設した南棟 2 階広間にて身体のケアを行った。翌日も同

坂教育部長より、立教 90 年、明治維新 150 年を迎えるにあたり、「創業の精神」をテーマに会員としての生き方を学んだ。その後、グループワークで茶話会の



様の作業を行い、3 日目は太神社殿の清掃や、お山の草刈り、午後は使用した道具の手入れや宿泊した部屋の清掃を行った。閉会式では岡野管理部長・宮坂教育部長挨拶後、記念品の贈呈が行われた。

今後、8 月 3～5 日、9 月 7～9 日、11 月 23～25 日の日程で行われる予定。参加希望者は本部通信を参照のこと。

行い方などについて話し合われた他、足もみ隊による足もみが行われた。参加者からは「難しいけれど勉強になった」「来年も開催してほしい」と好評だった。

静岡教区が志気を向上!

神徳を頂き、学び深める

静岡教区では、立教 90 年に向けて志気を高めた。

5 月 28 日、金剛さまの御教示により天八大龍王大神をお祀りし来年に建立 50 周年を迎える一碧湖神社(静岡県伊東市)の「春季大祭」が開催され、本部より村山正幸指導員が出講、来賓には地元の佃弘巳伊東市長も列席された。また神奈川教区役員、支部長や会員も多数参加し、静岡教区会員と共に祝った。

祭典は神事が厳粛に行われ、特に来年



は解脱会並びに当社社が節目を迎えることから、神徳を頂き会員一同ますます活躍ができるよう祈願した。

6 月は「女性のつどい」にて女性たちが熱心に学びを深めた。東地区は 11 日に三島二日町支部にて、西地区は 25 日に島田市地域交流センター歩歩路でそれ

ぞれ開催した。

東地区では、本部出講の野瀬志津江指導員より家庭における女性の役割の大切さやみ教えにそった生き方の大事さを学んだ＝写真。また、女性らしくあるために具体的な目標を紙に書いて発表し、金剛さまに実践することをお誓いした。

西地区は、「心と体を元気にしよう!めざせマイナス 5 歳」をキャッチフレーズに教区健康指導担当員の松永みつ江さんを講師に各支部の健康指導担当員の協力の下、健康指導の講義と実技を学び家庭や社会で生かすことを誓った。

神徳を頂き、学びを深めた静岡教区会員の更なる活躍に注目したい。

名古屋千成支部設立及び継承記念感謝会

支部継承は難有って有り難し



6月11日、名古屋千成支部は設立55周年並びに支部継承10周年記念感謝会を開催し、35名が参加した。

当支部の歴史は、昭和37年に伊藤喜三郎氏が名古屋笈瀬支部を設立。同54年に木下鉦治氏が継承し、名古屋正木支部に改称。そして平成19年に梅村吉男氏が継承し名古屋千成支部に改称し、現在に

至る。

第1部は午前10時30分に開会、拝礼行事、先亡者供養の後、花束を贈られた梅村支部長は、「支部継承は難有って有り難し、今後ともふさわしく当支部が継承されんことを願う」と語り、会員3名の発表の後、出講の近藤貞男指導員の記念講話では、「和をもって会員同士思いやりの精神を勉強する場が支部」と述べ、支部の尊さを再確認した。

第2部直会では、かとう旅館に場所を移し、和気あいあいとした雰囲気の中、終了した。

滋賀蛭谷支部継承記念感謝会

新風を受け盛大に祝す



滋賀蛭谷支部では今春季大祭の佳き日に前支部長の小椋一衛名誉支部長から阿野茂樹支部長へと継承されたことを記念し、6月18日、当支部にて「支部長継承感謝会」を開催。中元敏彦関西道場長、滋賀教区の太田豊地教区長を来賓に迎え、2歳の男の子が御神前で手を合わせる姿もあるなど親子孫三世代の会員・準会員約50名が参集した。

式典では、阿野支部長が挨拶の中で「法縁者の手本となるように自己を磨こう」と

会員へ促しつつ「支部と教区の発展に貢献された小椋名誉支部長は支部の誇り」とあい、「今後も支部発展のためにご指導を頂きたい」と述べた。

祝賀会では地元の温泉にて盛り上がる参加者の一人一人の姿から、支部に新たな風が吹いていると感じさせた。

伊賀友生支部設立記念感謝会

記念すべきスタート!

6月17日、伊賀友生支部の設立記念感謝会が同支部道場にて盛大に開催された。

同支部は中嶋久一支部長のもと伊賀上野支部より独立、今年の春季大祭にて支部認証を受けた。

午前11時開会。講話に立った中元敏彦関西道場長は、このたびの佳日を寿ぐとともに、「すべての生命の源」である支部御神前に会員一人ひとりがしっかりと足を運び、その神気に触れ、自己の向上に精進

努力を続けていくことを伝えた。さらに来賓の田中英次教区長、親支部の山本禎昭支部長並びに山本とし子名誉支部長から、それぞれ心温まる祝辞と激励が贈られた。

終了後の直会では、中嶋支部長はじめ支部会員らがこの



中元道場長から中嶋支部長へ、改めて辞令交付が行われた

初心を忘れることなく、一心を合わせて進んでいくことを誓い合った。

新潟教区・女性の集い

始めよう己育て



5月28日、新潟教区女性の集いが三条福祉センターにて開催され、35名の参加者が集まった。

午前10時45分より開会。「今日から始めよう己育て」をテーマに講話に立った野瀬志津江指導員は、「幸せを感じられる豊かな心を育てることが大切。ありがたい感謝の気

持ちで生活するところに幸せは自然とやってくる」と力強く伝えた。続く質疑応答でも野瀬指導員は自身の体験をもとに家庭における女性

の役目について回答し、多くの参加者から好評を得た。

午後のグループディスカッションではそれぞれ理想の人間像を挙げ、そのために努力することを考え、最後に金剛さまへのお誓いをカードに記入。各自、家に持ち帰って今後の目標にすることとし、楽しく有意義な集いを閉会した。

北陸教区・女性セミナー

み教えを身近な人へ

北陸教区は6月18日、女性セミナーを金沢長田支部で開催した。参加者は39名。

今回は「つながる心ー共に喜びあいましょう」をテーマに身近な人々へみ教えの和を広げていく方法について学んだ。午前11時より拝礼行事、開会挨拶、横山高信教区長挨拶に続き、福井加茂河原支部の神下恵子さんが親子孫の三世代家族でみ教えを学ぶ中での体験談を発表した。午後からは武市万苗指導員が講話に立ち、「子供は親の後ろ姿を見ている。夫婦、



家族が仲良く解脱を中心とした生活を送る中で学んでいく」と述べ、家族茶話会の開催を推奨。また、お導き活動について、失敗を恐れず相手の幸せを願い真心からお誘いすることの大切さを伝えた。その後、活発な質疑応答が行われ、終始和やかな雰囲気の中、午後3時、散会した。

千葉教区

合同で海供養&簀立て

千葉教区は教区大会として 6 月 11 日、「千葉を守護する 八大龍王神と自然の恵みに感謝し、家族ぐるみで学び、み教えの後継者育成」を目的に海供養と簀立てを行った。今回は圏域内の協力を仰ぎ、出講の廣川貞雄指導員の南新宿支部をはじめとする 7 支部の



会員ら合計 162 名が木更津市 中島海岸に集った。

当日午前 9 時より、拝礼行事、浅利親範千葉教区長挨拶、廣川指導員の挨拶に続いて、金剛さまゆかりの水神宮にて天茶の撒き供養が行われた＝写真。

供養終了後、参加者は分かれて準備された船に乗り込み、簀立て漁と潮干狩りを行った。大きな魚やアサリを獲った後すぐにてんぷら等に料理され、みな感謝とともに味わった。

終了後、参加者からのたくさん喜びの声が聞かれた。

茨城教区・女性のつどい

御皇室ゆかりの地へ

茨城教区では 6 月 3 日、教区女性のつどいを開催し、35 名が参加した。

当日、茨城小田支部にて拝礼行事の



後、出講の武市万苗指導員より「感謝の生活」の大切さについて講話があった。終礼行事後、御皇室ゆかりの雨引山・楽法寺(雨引観音)へ向かい、参拝。本堂にて護摩を厳修し、御皇室の弥栄を祈念した。昼

食の後、笠間稲荷神社を参拝、笠間芸術の森公園で行った楽焼の絵付けでは、それぞれ子供の頃に戻ったかのように楽しんだ。

最後に支部に戻り、終礼行事で終了となった。

神戸教区

泉山と金剛宝塔の尊さ学ぶ

神戸教区では 5 月 28 日、関西道場ならびに金剛宝塔にて家族スクールを開催し、早川廣美指導員が本部出講、親子孫 60 名が集った。

午前は、青年部が関西道場近辺の清掃奉仕、青年部以外

は道場にて金剛宝塔の尊さを学んだ。午後からは宝塔前にて建立の経緯を学び、金剛さまと齋祀精霊に焼香を捧げた。

更に御寺の案内を頂き泉涌寺内各所を参拝、改めて泉山と金剛宝塔の尊さを学んだ。



スポットライト

祝百寿 会員の手本として、ますます

川崎由雄名誉支部長(神奈川県松風町支部)は大正 6 年生まれの栃木県出身。21 歳で満州に出征後、陸軍少年戦車学校の教官を務める。戦後はダム建設に貢献した。29 歳、平塚にて家族でみ教えを学ぶ林子夫人と結婚して婿養子となり解脱の縁にふれる。

現在、支部道場隣の自宅に暮らし、身の周りのことや御神前のお給仕までも自ら行



い、支部感謝会に参加する姿は会員の手本となっている。7 月 7 日の支部感謝会では会員からの祝福を受けた。

東京第 4 教区

親子孫が集い、親睦を図る

東京第 4 教区は 6 月 17 日～18 日、栃木県那須と福島県白河にて家族スクールを開催し、親子孫 96 名が参加した。

17 日は、昼食の後、南ヶ丘牧場で動物とふれ合い、白河関の里にて宿泊。夕食は BBQ

を行い、鼓笛隊演奏後のキャンプファイヤーでは、ギターに合わせ大合唱となった。

18 日は、畑で野菜の収穫体験を行い、昼食は那須のビール園でお腹を満たし、解散。思い出に残る 2 日間となった。



神奈川教区

楽しくバーベキュー大会



6 月 25 日、神奈川教区では小田原いこいの森にて、家族スクール・バーベキュー大会を開催。一般の方の参加もあり、126 名が集った。

小雨降る中、屋内の施設でゲームを楽しんだ後、屋根付きの会場でバーベキュー大会となり、最後にまたゲームで遊び、大いに楽しんだ。